

【生薬名】竜胆 *GENTIANAE SCABRAE RADIX*

【起源植物】トウリンドウ *Gentiana scabra* 他同族植物



【科名】リンドウ科 *Gentianaceae*

【別名】ニガナ、アゼキキョウ、龍膽一名陵游

【薬用部分】根

【主成分】苦味配糖体ゲンチオピクロシド、キサントン類、糖類

【薬性】気味は苦甘、帰経は肝胆に属す

【効能】●清熱燥湿、瀉火定驚

●健胃、消炎、解熱の効能がある、胆肝実火に用いる

●漢方では肝臓や胆嚢から熱を去り、下半身の熱を除くといわれ
消化管の充血や炎症の治療に使われる

●苦味健胃薬として消化不良、食欲不振、胃酸過多、胃痛、腹痛
に1日2～3gを煎服、粉末は1日0.5～1gを食後服用する

●ヨーロッパの健胃薬ゲンチアナの代用として同様に用いている

●成分が舌先を刺激して大脳反射により胃液分泌を盛んにするため
竜胆をオブラートに包んで飲んでも効果が余り期待できない

●竜胆は下半身の湿熱を除く、残尿感、こしけ、外陰部の痒みに

【出典】●治骨間寒熱。驚癇邪氣。續絶傷。定五藏。殺蠱毒。久服益智不
忘。輕身耐老。(神農本草經上品)

●竜胆 苦寒、眼赤疼を療す。(薬性歌)

●治徽氣骨熱、眼中熱赤。(一本堂薬選)

●胃中の伏熱、時气温熱、熱泄下痢を除き、陽中の小虫を去り、
肝胆の気を益し、驚惕を止める。久服すれば智を益し物を忘れ
ず、身体を軽くし、老衰を防ぐ。(名医別録)

【備考】●足の厥陰、少陽の経の気分の薬であって、その応用に4通りあ
る。(1). 下部の風湿を除く、(2). 湿熱を除く、(3). 臍下から足
に至る腫痛を除く、(4). 寒湿脚氣を除く

【処方例】●竜胆瀉肝湯、疎経活血湯、立効散、